

第47回総会 6月28日(土) 2大イベントであなたをお待ちしています



箱山リサさん

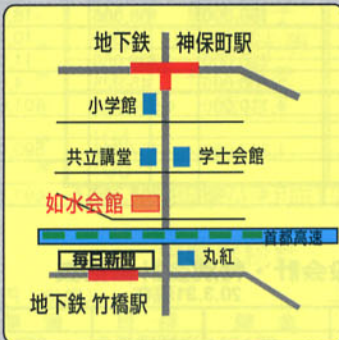


エベレスト登頂をなしとげた柳沢勝輔さん



前回の展示販売コーナー

6月28日(土曜日)
13:15 受け付け開始
14:00~17:30
総会・講演会・懇親会



【会場】 如水会館
千代田区一ツ橋2の1
電話 03-3261-1101
【会費】 8,000円(学生無料)

地下鉄 神保町駅下車徒歩3分
(三田線・新宿線・半蔵門線)
地下鉄 竹橋駅下車徒歩4分(東西線)

より豊かなふれあいの場。
総会をみんなで盛り上げましょう!

第47回総会実行委員長 三井文人(61期)

関東同窓会第47回総会は、6月28日(土) 神田一ツ橋の如水会館で開催されます。

今年は柳沢勝輔(53期)さんにエベレスト登頂の体験談を記念講演いただきます。

(関連記事は8ページ参照)

懇親会ではアトラクションとしてプロの歌手箱山リサさん(64期)箱山氏のお嬢さんのショーを企画しました。

また、昨年好評だった会員の作品展示や頒布と共に、今年は仲間集めの呼びかけの場も持ちたいと思います。

◎ 詩歌、随筆、紀行文、評論文、その他の書籍、手工芸品などの出品、異業種交流や趣味の集まり、ボランティア活動などの人材募集のPR、母校の思い出、班活動、同窓会・同期会活動の記録などを出品下さい。

【主な出品要領】 展示品は当日持参し管理する。頒布品に関わる費用は自己負担。展示・頒布希望者は6月10日までに出品内容を連絡下さい。

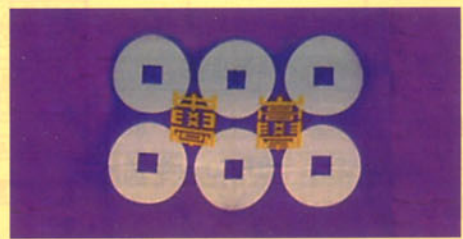
【申込み・お問い合わせ先】

三井文人(61期) 電話 042-384-4118

Eメール funio2@jcom.home.ne.jp



会場の設営や、受付、総会の議事進行等は、当番期の皆さんが協力して行っております。当番期は5年に一度回ってきます。今年の当番期は、61、66、71、76、81期の皆さんです。当番期にあたる方は、11時ぐらいまでに会場にお越しください。当日の任務の分担等を致します。



新会長候補に白井透さん(60期)

関東同窓会の役員の任期は3年となっております。今年は改選期にあたり、役員選考委員会が各期の幹事等を中心に候補者の推薦を呼びかけました。推薦された数名の中から、選考委員会は白井さんを中心に推薦し、承認を受けることになりました。本部の新理事長、日置勇二さんも60期であることから、白井さんが新会長になると本部との連携も一層進むものと期待されています。

実行委員当番期の方、ご協力ください

平成19年度会務報告案

(平成19年4月1日～20年3月31日)

■第46回総会・懇親会 平成19年6月30日(土) 如水会館に出席者38人集う。

第2部は西沢真理子さん(91期)による、江文也(28期)の埋もれていた遺作のピアノ演奏会、江庸子さん(故江文也の次女)が出席された。

■会報76号は平成19年5月中旬に総会直前号として発行。年間1回の発行とした。

■平成19年5月に事務所を四谷から三番町へ移転。財政上、新事務所への移転効果が大きく表れた(20万円以上)。龍野彰宏(58期)さんにお世話になった。

■財政に関しては、同窓会事務所維持寄付金は目標額には達しないものの年会費などの増収が効いて予算より約15万円収入増。

支出面では会報発行費などの削減で予算より約39万円減。

次期繰越額が約54万円増え、76万円弱繰り越すことが出来た。会員の皆様のお蔭です。

■ホームページを使って拡大幹事会、ゴルフコンペなどの各イベントの結果を公開。

■母校社会講座へ講師派遣。本校PTAとの交流、母校の入学式、卒業式へ参加。

■ゴルフコンペ4、10月に開催。

■上田本部、関西、中南信の総会に参加。県高校同窓連関係の総会・新年会に参加。

■役員改選期にあたり次期会長候補者を一般公募。選考委員会を立ち上げ、会員の方々から候補者を推薦いただき、選考作業。同時に次期執行部のメンバーについても検討。

●●平成20年度会務計画案●●

■第47回総会・懇親会

平成20年6月28日(土) 如水会館で開催。

第2部記念講演会では柳沢勝輔さん(53期)によるエベレスト登頂の講演を企画。

第3部ではプロ歌手の箱山リサさん(64期箱山さんのお嬢さん)が出演。

■会報77号は平成20年5月中旬に総会直前号として年1回発行を継続。

■ホームページを活用し、拡大幹事会、ゴルフコンペなど各イベントの結果を公開。

会員同士、本校・本部・各支部会員との情報交換を促進。

■母校社会講座へ講師派遣。本校PTAとの交流、母校の入学式、卒業式へ参加。

■ゴルフコンペは4月のコンペ参加者によるアンケートの結果、引続き開催することに決めた。4、10月に開催予定。

■上田本部、関西等の総会に参加。県高校同窓連関係の総会・新年会に参加

●●平成19年度決算報告案●● (平成19年4月1日～20年3月31日) (単位：円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差額	科目	予算	決算	差額
前期繰越金	-170,986	-170,986	0	大会費	1,320,000	1,362,183	42,183
大会費収入	1,600,000	1,696,000	96,000	会報費	1,250,000	1,048,895	-201,105
会報広告料	250,000	195,000	-55,000	交通費	230,000	168,320	-61,680
年会費収入	1,600,000	1,859,000	259,000	通信費	120,000	119,492	-508
会議費収入	340,000	255,000	-85,000	会議費	510,000	378,522	-131,478
寄付金収入	200,000	454,735	254,735	渉外費	150,000	168,006	18,006
事務所維持費収入	600,000	205,000	-395,000	印刷費	50,000	9,560	-40,440
雑収入	200,000	272,000	72,000	事務費	700,000	708,069	8,069
受取利息収入	0	611	611	雑費	70,000	45,325	-24,675
(小計)	4,790,000	4,937,346	147,346	(小計)	4,400,000	4,008,372	-391,628
運営基金利息繰	0	0	0	次期繰越金	219,014	757,988	538,974
合計	4,619,014	4,766,360	147,346	合計	4,619,014	4,766,360	147,346

●●平成20年度予算案●● (平成20年4月1日～21年3月31日) (単位：円)

収入の部				支出の部			
科目	20年度予算	19年度決算	増減	科目	20年度予算	19年度決算	増減
前期繰越金	757,988	-170,986	928,974	大会費	1,400,000	1,362,183	37,817
大会費収入	1,600,000	1,696,000	-96,000	会報費	1,050,000	1,048,895	1,105
会報広告料	250,000	195,000	55,000	交通費	200,000	168,320	31,680
年会費収入	1,800,000	1,859,000	-59,000	通信費	120,000	119,492	508
会議費収入	250,000	255,000	-5,000	会議費	400,000	378,522	21,478
寄付金収入	600,000	659,735	-59,735	渉外費	150,000	168,006	-18,006
雑収入	200,000	272,000	-72,000	印刷費	20,000	9,560	10,440
受取利息収入	0	611	-611	事務費	720,000	708,069	11,931
(小計)	4,700,000	4,937,346	-237,346	雑費	50,000	45,325	4,675
運営基金利息繰入	0	0	0	(小計)	4,110,000	4,008,372	101,628
合計	5,457,988	4,766,360	691,628	次期繰越金	1,347,988	757,988	590,000
				合計	5,457,988	4,766,360	691,628

運営基金特別勘定 20.3.31現在 (単位：円)

科目	前期繰越	当期	期末残高
運営基	9,930,000	110,000	10,040,000
同利息	2,471,772	10,654	2,482,426
利息一般会計繰入	-1,700,000	0	-1,700,000
合計	10,701,772	120,654	10,822,426

普通預金：三井住友
郵便振替：新宿花園郵便局
定額貯金：新宿花園郵便局
定期預金：三井住友

一般会計・特別会計総括表 20.3.31現在 (単位：円)

科目	金額	科目	金額
現金	854,554	次期繰越金	757,988
普通預金	466,700		
郵便振替	1,238,469		
特別会計から一時流用	-1,801,735		
<運営基金用>			
定額貯金	5,210,192	運営基金	10,822,426
定期預金	3,804,906		
普通預金	5,593		
一般会計へ一時流用	1,801,735		
合計	11,580,414	合計	11,580,414

第47回総会に参加しましょう!

6月28日 如水会館
受付開始13:15

実行委員は、61、66、71、76、81期の方々に
お願いします。当番期の方は早めにご参集下さい。

総会では、平成19年度の会務報告、決算、監査の報告と承認、平成20年度の会務計画案、予算案の審議と承認を行い、新役員を選出を行います。
次いで、記念講演の後、懇親会に移り、和やかに旧交を温めます。

第1部：総会 14:00-14:40

議事 (19年度会務報告、決算報告、監査報告、20年度会務計画案、予算案、他)

第2部 記念講演会 14:50-15:50

柳沢 勝輔さん (53期)

第3部 懇親会 16:00-17:30

箱山リサさんの歌、懇親、会食 (立食buffet形式)、校歌、凱歌斉唱、他



昨年の懇親会風景

久しぶりに校歌、応援歌を歌う。

江文也さん(28期)の曲を演奏をした西澤真理子さんと江文也さんの次女庸子さん。(右側2人)



会長候補挨拶

白井 透 (60期)

心楽しい場をともに育みましょう

関東同窓会は、私どもに憩いの場を提供してくれる樹木の緑陰に擬えられるでしょう。その緑陰は、会員の皆様の支えのもと、多くの代々先達のご努力により、苗木から若木へ、さらに今日の成木の深々としたそれへと成長してまいりました。

この会の次期会長候補として推されておりますが、大役を拝受することになりましたならば、もっと多くの枝を張り、葉を繁らせて、より心楽しい場を恵んでくれる大樹の緑陰に向けて成長し続けていけるよう微力を尽くす所存です。

緑陰の下に、古城の門が結んだ「学縁」で集まれば、それぞれの世界、それぞれの道を語って話題はつきることがなく、豊かな時間が流れます。「学縁」以下、ある先達のお言葉を拝借いたしました。そして、同窓生が集うことに、自然と新たな緑陰が生まれ育つ。

さらに、皆様の引き出しに詰まっているその人ならではの知・経験・情報を縦横紡ぎあい、その命をつなぎあって、世代を超えて互いの心の糧といたしたい。またその成果を在学生にとつての指標となり、励みを生むような中身の濃い支援につなげてまいりたいと思います。

具体的な方策とその実施につきましては、皆様と相携えてまいりますので、会員の皆様よりの多数貴重なご意見と、力強いご協力を賜りたくお願い申し上げます。

国公立大学現役合格数164名（長野県内トップ）！

長野県上田高等学校
進路指導主事 宮澤 典彦

平成20年度入試における本校現役生合格実績は、本校の進路指導においてメルクマールとも言うべきものとなりました。すなわち、国公立大学合格者総数の164名という数字は、昭和45（1970）年の168名という実績以来の37年ぶりのものとなりました。

特筆すべき点は、難関国立大学（旧制帝国大学7校・一橋大学・東京工業大学）の合格者数が19名と昨年度比1.5倍に増加した点であります。内訳も東大4名（昨年度2名）、京大2名（同0）、阪大4（同2）、東北大5（同3）、名古屋大1（同1）、北海道大1（同2）、東工大2（同0）と九州大と一橋大（同2）を除く各大学に満遍なく合格者を輩出しています。また、国立大学医学部医学科も2名（昨年度2）合格を果たしました。また、その他の大学へも満遍なく合格者を出すことができました。
信州大学は合格者総数が40名（合格者総数の100%）で、特に教育学部の前期入試は、本校の受験した生徒のうちの実に100%の生徒が合格することができました。卒業学年は、「第一志望を簡単にあきらめない」というスローガ

Table with columns for university names and counts for the years 19, 18, and 17, listing various institutions like 旭川医科, 帯広畜産, etc.

母校便り

難関国立大学19名合格！

ンのもと、センター試験に向け、5(6)教科7科目型受験を殆どの生徒が受験した点が功を奏したと言えます。

これらの結果の根源は、何と言っても生徒集団が「素直であったこと」があげられます。生徒自体に教師の指導によく耳を傾ける度量が備わっていたこと、最終的には自主的に学ぶ姿勢が育っていたことがあげられます。

また本校は、昨年度から土曜日公開授業を開始いたしました。これは、「地域に開かれた学校づくり」、「知徳体バランスのとれた教育課程」、「班活動、生徒会活動、家庭学習時間の確保」を目的としており、その成果として、生徒の学習習慣の定着がはかられたことが進路実績の向上に大きく繁栄した結果であると考えます。

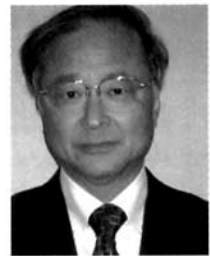
昨今は、地域からの信頼も肌で感じ取ることが多くなって参りました。

今後は、更なる飛躍に向かって職員一同教育活動にあたってゆく所存です。

同窓会の皆様には、「社会講座」、「企業見学」及び「卒業生による進路講演会」の行事等を通して、側面から大きなご支援をいただいております。

今後とも本校教育活動について深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

信頼される学校づくり



着任挨拶

校長
関 哲夫

古城の門を背景に、満開の桜を撮ろうとする大勢の観光客の姿も今は見えなくなり、季節は花から緑へと移っております。

関東同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃より母校のために物心両面に亘るご支援を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

この四月より学校長として赴任いたしました関哲夫と申します。長野県教育委員会高校教育課から参りました。長い歴史と伝統を持ち、幾多の有為な人材を輩出して来た本校にお世話になる喜びとともに、緊張感を覚えておりますが、微力ながら精一杯努力する所存ですので、どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、平成二十年度は、全日制三百二十五名、定時制三十五名の新入生と、人事異動による十六名の職員を迎えてスタートいたしました。この三月の卒業生は、国公立大学現役合格者数が百六十四名に達し、県下随一の進学実績を上げることができました。これは昭和四十五年の百六十八名に次ぐ三十七

年ぶりの快挙(当時とは入試制度が異なる)であり、県下の進学校を大きく引き離してのトップでありました。また、その内容も素晴らしく、

東京大(四)(現役四)、京都大(三)(二)、大阪大(八)(四)、東北大(九)(五)、北海道大(三)(一)、名古屋大(二)(一)、東工大(二)(一)、一ツ橋大(一)、医学部医学科(六)(二)などであり、私立大合格者も三百四十八名に上りました。

この成果の要因は、土曜授業の実施、補習の充実、七時下校の徹底、学習室の週末終日開放などが挙げられますが、何よりも職員集団が一丸となって進路指導に取り組んだことと、それを信じてひたむきに努力した生徒の存在だったと思います。

この成果を維持し、さらに発展させるため、教職員一同気持ちを新たに全力で取り組んでいるところであります。

一方、クラブ活動も盛んで、多くの班が全国大会出場を目指し、早朝から毎日がんばっております。

このように、皆様方の母校は、文武両道、自学自習の伝統を継承しながら、校歌にある「いざ百難に試みむ」の精神をモットーに、保護者・地域の皆様信頼される学校づくりを励んでおります。

どうか、今後とも本校のために同窓会の諸先輩方の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

生徒が、雪かき

藤本前校長のメールより

今朝早く出勤すると、綺麗に雪かきが出ておりました。誰がやってくれたのだろう。素晴らしいです。校内を回りながら外を見ると、早く来た生徒が雪かきをしています。素晴らしいなあ。声をかけると、吹奏楽班の女生徒たちでした。

そこに剣道班の諸君が加わって、夜に積もった雪をかいてくれました。

昨年は大雪の朝、雪かきをしました。あの時は、こんなにも大勢の生徒が自主的には出てくれなかった。それが、今年が一度も雪かきをしません。それで大丈夫です。嬉しいことでした。

一つお礼申し上げます。56期の皆様卒業50周年記念事業で研究室で使用するレーザープリンターを12機も寄贈くださいました。本当にありがとうございます。これは小生が赴任した時以来の懸案でした。また、更に御好意で7万枚もの用紙も寄贈して頂けるとのこと、事務の担当者が本当に喜んでおりました。(20年2月4日)

早朝の登校だけでも若い人には辛い事に違いありませんが、授業開始前に雪かきをする生徒さんがおられるとは本当に素晴らしいことだと感服しました。(柳沢清充・関西同窓会)





写真は、NHK「その時歴史が動いた」
＝真田昌幸・信州上田の市民戦争」より



上田高校のホームページに〈スクール・アイデンティティー〉
が載っています。その一部を転載します。
我々同窓生も、この心で励もうではありませんか。

上田高校の心—— 試百難

〈上田高校のスクールアイデンティティー〉

1 「試百難」の心構え

- 困難から逃げない
- 周到な準備をする
- 最後までやりぬく

スクールアイデンティティーとは何か

その学校に集う者が共通に持つ (持って欲しい)
その学校ならではの、物事に取り組む姿勢・心構え

3 その具現化 (校歌等をもとに)

！ 至高の望み - これ以上なく高い望み

周到に準備し、困難に挑戦し、最後まで粘り抜くことで、自分の力の限界を試し、到達可能な高い望みを見だし、その実現に向かう。

” 至剛の誇り - 簡単には揺るがない、他者にも認められる誇り

周到に準備し、困難に挑戦し、最後まで粘り抜くことで、自分勝手な誇りではなく、他にも認められる誇りを身につける。他に認められるためには行動の規範も身につけたい。

具現化のイメージ

「試百難」の心構え → 文武両道・自学自習に励む・行動の規範を身につける

→ 将来の希望・自尊心の芽生え → さらに文武両道・自学自習に励む

→ 至高の望み・至剛の誇りの獲得 → 自らの将来を拓く

教職員は、それぞれの立場・さまざまな場面で、このプロセスをイメージし、生徒を支援する。

3月19日剣道班の諸君が「試百難」のTシャツを藤本校長に贈って感激させた。体育の先生のお話では「剣道班の諸君はとても心がしっかりしている」とのこと。文武両道、いい話である。



「試百難」のTシャツ

3月5日には卒業生全員に藤本校長の「試百難」の色紙が贈られた。4百枚もの色紙を書くのは大変な作業だが、「字には心が表れているから」と藤本校長。卒業生の一生を支える宝となるだろう。



卒業生全員に色紙

ご挨拶
54期 石井 光春

関東同窓会会長在任中（平成14年4月～平成17年3月）は、皆様には御支援、御協力を賜り、ありがとうございます。私は現在、販促業界において60年の歴史を誇る、ヒロモリコーポレーションの経営に携わっております。



ヒロモリグループは、感動を提供する総合プランナー集団です。販売促進（セールスプロモーション）をトータルに企画・制作する総合代理店として、人々の心を動かす多彩なアイデアを形にしています。

株式会社ヒロモリコーポレーション 代表取締役社長 石井光春
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-12
TEL (03) 5821-1620 ホームページ <http://www.hiromori.com/>

【編集部注】石井さんは、元住友商事専務取締役、元住商リース株式会社社長。平成14年4月～平成17年3月、当会の第14代会長をお勤め頂きました。

前田 喜美子(54期)

株式会社 パワーズプロジェクトマネージメント
株式会社 アーキプライム 株式会社 龍美 建築部門
株式会社 パワーズアンリミテッド 賃貸管理部門
株式会社 パワーズエステート 賃貸仲介部門
株式会社 パワーズメンテナンスサービス メンテナンス部門
株式会社 パワーズホーム 不動産開発部門

社会福祉法人 龍美・保育園運営
医療法人社団 みどり会・認知症病院運営
NPO法人 ペット共生環境研究会
・ペット共生環境支援
中間法人 パワーズ・文化芸術活動

一貫体制の土地有効活用 **パワーズグループ**
〒162-0066 東京都新宿区市谷台町8-8 Tel.03-5362-0880(代表)



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater
“発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく”

株式会社 トイズファクトリー

代表取締役 井出 孝光 (61期)

◎Mr. Children

◎ゆず

◎BUMP OF CHICKEN

◎ケツメイシ

◎RAG FAIR

◎melody.

◎湘南乃風

◎AYUSE KOZUE

ソフトウェアの

システム技研株式会社

代表取締役 清水 通男 (66期)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-34-1 サンビル5F
TEL (03)5272-8830 FAX (03)5272-8836
URL <http://www.s-giken.com>

人生100年
明るく楽しい社会づくり!

懐メロを歌いながら

音楽体操を!



明楽社

千葉県市川市

56期 小平節夫

Tel. 047-327-5956

E-Mail: meiraku@sonata.plala.or.jp

柳沢勝輔さんからのお便り



写真 asahi.com



拜復 若葉の美しい季節になりました。過日は私のエベレスト峰登頂にご祝詞を賜わり、まことにありがとうございます。身にあまる光榮と恥じ入っております。私の勝手な登頂にもかかわらず、お騒がせしてしまったことを、申し訳なくお詫びいたします。そもそも私のヒマラヤは昨秋の8千米峰のチョーオユー登頂で済んでおりました。8千米峰としては、岳人の間でも比較的楽な山として知られておまして、8千米の風にふれたいものだと思つたわけでありました。氷河のほとりのモレーン(岩屑)の道を、月明りを頼りにキャンプに向かった時は、重い足を引かずにはいたものの、念願を成就した喜びが身体を熱くさせ、本当に満足しておりました。それが、そのチョーオユーから突然目にした、しかも手を伸ばせば触れられるかと思ふ程に見えたエベレストの姿の美しさ、けだかさ、そしてその神々しさが頭から離れられなくなりました。もともとエベレスト峰は私の登れる山ではなく、登ることなど、思いもよらぬ山だったので、それが、どうしたことかエベレスト峰に登ることになかなか決断できないうちに、頭と身体はなぜかエベレスト峰に向かい、諸条件が調わないままに、トレーニングしてみたことに入っております。3月30日から6月12日帰国の予定で、仲間にも内緒で、脱出するが如く、日本を出発しました。前もってこのことがわか

れば、ストップがかかることはわかり切っておりまして。お世話になりました。ヒマラヤエクスペリエンス社のラッセル氏は、高度順応について徹底してゆっくりゆっくり、高度を上げる方法をとっており、また休養をあきる程にとらせる手法です。それが功を奏し、高度の不安もなく登れたように思います。エベレスト峰登山は私にとって偶然の出来事でありましたから、挑戦という気持はまったくなく、また高齢者記録という意識もなかったもので、高峰に登るということ以外のプレッシャーはありませんでした。むしろどこでつまづくか、登れなくなるかというの方が大きかったと思います。事実、前進キャンプ(ABC)を出発して、キャンプ1(C1)までの急な登りをへとへとになって登っている時は、C1とC2ぐらいで断念すべきと迷う程でした。C1からC2までの道のりも本当に苦しかったのですが、C2のキャンプに入ってから、あと3日間と思つたら気持は完全にふつ切れて、頂上をめざす姿勢になっていました。C4のキャンプは夜中の12時に出発しました。日の出までは風がおさまっていること、頂上に着いてから、安全な場所まで下山するのに15時間ぐらいを考えなければならぬので、こういうことになりました。結局、8時間かかって頂上に着きました。頂上は快晴・微風の中、エベレスト峰のテツペンにまたがって湯を飲み、カンパンをほうばりながら、昨秋に登ったチョーオユーなどの山脈を数十分眺めていました。下山になって山の全容を見ると、登りには暗闇の中、ヘッドランプで足も

ただけを照らしていたのでわからなかつた山の険しさが身震いするほどにすごいことを知りました。しかも随所に横たわっている遺体の数に、厳しい山であることを認識させられました。登りがきつい山は下山もまたきついものでした。それに乾季の山は雪が乾燥して、下山は雪煙がもうもうと吹きすさぶなかで、モンスーン(雨季)の近づいていることを感じました。50歩から百歩程歩いては止まり、ロープに体をしばりつけて、腰をおろして休み、「立ち上がって歩け」と自分に言い聞かせて、綿のように疲れ切った身体を運ぶ始末で、なんとか下山し、生還いたしました。

私のエベレスト峰登頂は、私が自分の足で登ったことは事実であります。それ以上に、登らせてもらった気持の方が強いものがあります。それは世話になったヒマラヤ・エクスペリエンス社であり、長年の付き合いであるベテランガイドの倉岡裕之氏が私にびったり寄り添ってくれたこと、固定ザイルを張りめぐらし、テントを設置し、酸素ボンベを荷揚げしてくれたシェルパ達の支援、仲間の励ましで登らせていただいたと、心底から思うっています。

いろいろご心配いただきましたが、今は身体の疲労も少しずつとれて回復に向かっているように思われます。思いもかけないメディア(報道)の波もおさまっております。もとの生活に戻れそうです。ご返事が遅くなりましたことをお詫びいたします。簡単な登山報告で申し訳ありませんが、私の気持をお伝えして、お礼とさせていただきます。ありがとうございます。

(平成19年6月)

上田高校女性同窓の集いに参加して

70期 高橋淳子



数十年ぶりに母校をた訪ねて、校長室で。



同窓という絆。



8月21日の夜クラスメイトの花岡さんから電話がかかってきました。上田高校の同窓会誌に同封されていた女性同窓生の集いの案内を見て私達のクラス会をその時に同時にやろうという提案でした。行動的な彼女は他の4人も連絡をとり何と26日には全員参加をとりまとめました。当初私は懇親会のみに参加する予定でしたが、申し込む時にいろいろなオプションが選べるのがわかりました。どうしようかと思案する私にホテル宿泊を決めていた花岡さんが一緒に、泊まっていた中語り明かそうと誘います。悩んだ末仕事を休んで宿泊することを決めました。さらに松尾さんが松川渓谷のツアーに参加すると聞き、翌日のツアーも含めた参加を締切日によくやく申し込みました。

参加を決めてからは子供のようによくわくしながら21日を待っていました。懇親会当日はこれ以上ない秋晴れでした。上田駅で花岡さん松尾さんと待ち合わせて先輩の車に乗せて迎えに来てくれた原田さんと一緒にあずまや高原ホテルに向かいました。車中では先輩とも楽しい会話がはずみ、周りの景色を見ることがなく話し続けると会場のホテルに着きました。車から降りると雲ひとつない青空に初冠雪の浅

間山がみえ息を呑むほどに美しい眺めでした。会場では先に到着していた2人と合流し幹事のご配慮でクラス6人が同じテーブルを囲むことができました。会が始まり私たちが初めてお会いする先輩たちのお話を聞きました。特に第一期の女性が昭和28年に入学したと話されたときにはびっくりしてしまいました。

70期の私達が生まれた年なのです。その後も続く先輩のお話を聞いていきますと創成期の大変な時期を軽々と乗り越えてきたことがわかり私達と比べものにならないくらいエネルギッシュな方たちで圧倒されてしまいました。

西澤さんのピアノ演奏もあり瞬間に終わった懇親会でした。その後は各人がそれぞれの日程で帰宅の途につきました。私は翌日の小布施を回るツアーに参加し北信濃の秋を心ゆくまで堪能しました。先輩と一緒のバスは最初のうちこそ緊張していましたがいろいろなお話が聞けて楽しい旅行でした。今回はクラスの6人が六様の参加を選んだのですが皆が満足のいくすばらしい会で、帰宅後も写真やメールで余韻を楽しんでおります。初めて参加した全国規模の同窓会でしたが心に残る会となりました。最後にこの会を企画し細やかな配慮で運営してください。67期の皆様にご心より感謝致します。

62期 佐藤澄江

「上田高校」を卒業して44年になります。在職中は、高校の同級会や同期会には参加しても、「同窓会」に出席してみようという気持ちの「ゆとり」は出来ません

でした。でも関東地区の女性の同窓会には時々出席させていただき、「近況報告」などを伺いそれぞれの場で、その人らしい生き方をしてもらえる姿に「明日からのがんばり」を頂いてきました。

今回の全国規模での「企画」は「古城の門」の予告のお知らせを見つけた時から心が動いていました。同じ時期を過ごした方々とお会いできるかもしれないし、一緒に旅行が出来るかもしれない。還暦を迎えて数年、仕事も子育ても一段落、自分の健康状態も親の介護もそれほど逼迫感はない。この機会を逃がしたら、次の機会はないかもしれません。もちろん「平塚らいてうの家」も、まだ行ったことのない

「小布施や松川渓谷」も魅力でした。「参加しよう」という気持ちが自分の中で高まって、同級生や同期生に声をかけました。実際には、皆さん介護が大変な時期を迎えておられ、参加できなかつたのですが、申し込みをする時点からちよつと「わくわく」気分も味わえました。

10月20日は素晴らしい青空に恵まれ、四十数年ぶりに古城の門の中に入りました。昭和30年代とはがらりと変わっていました。昭和三十年代とはがらりと変わっていました。校舎の配置にあの頃の思い出が重なりました。

四阿山の麓のホテルは紅葉と、初冠雪の浅間山の眺望が見事でした。62期の参加者は少なく、奈良から見た阿部さんだけが少なくて、高校卒業以来の懐かしい出会ひでした。教授としてがんばりながら関西同窓会で多彩な取り

組みをしている報告に高校時代のバイタリティーに富んだ百合子さんがオーバーラップしました。総会でのピアノ演奏も全員の「一分間スピーチ」も心に残るものがありました。幸福とは自分で手に入れるもの」と話された前田同窓会のお話には、以前伺ったアメリカ生活の重みもありました。「きらめいて今を生きる」という名詞を作られた小山さんのお話。「これからの生き方」のヒントを頂いたような気がしました。

「らいてうの家」の館長さんのお話は素晴らしい、設計をしたのは目の前に座っておられた高校の同窓生と知りうれしくなりました。「女性の権利」について資料をまとめて下さった清水さんのお話は、社会人として生きてきた自分たちの時代を振り返る参考にもなりました。

2日目もお天気に恵まれ、マイクロバス1台分の人数で、初めて松川渓谷、小布施の北齋館、岩松寺をめぐる再度訪れた場所となりました。婦路長野駅に向かう車中では、麦島さんのリードで女性2部合唱も出来、心に残る素晴らしい思い出の二日間となりました。

至れり尽くせりの今回の企画をして下さった役員の皆様と、67期のパワフルな皆さまに心から感謝しております。

スポーツキャスター 西田善夫さんを迎えて

上田球友会新年総会・懇親会報告 幹事 小林 清隆 (71期)

上田球友会は、関東在住の上田高校野球部OBとこれを後援して下さる賛助会員で構成され、母校野球部への支援や会員相互の懇親など積極的な活動をしております。

去る1月20日に上野東天紅で開催された総会・新年会は総勢35名と例年にも増して盛会となりました。本年は特別ゲストとして元NHKのスポーツアナウンサー、西田善夫さんをお迎えしました。当会の成田邦夫会長(56期)が西田さん出演のラジオ番組に投稿して知己を得て、元スポーツニッポン新聞社社長の森浩一氏(52期)のご尽力もあって講演をしていただけることになりました。緻密な取材とデータをベースとした実況に定評がある西田さんの講演は、大変感動的なものでした。高校野球をこよなく愛した作家、作詞家、故阿久悠さんや取手二高の木内幸夫元監督とのエピソードをはじめ、NHK時代の上田高出身者を含む信州人との友好や、我が上田高校の野球人である元プロ野球審判員丸山博氏(49期)、ヤクルト球団専務倉島今

朝徳氏(58期)との関わりなども披露されました。とりわけ木内監督率いる県立高の取手二高が、甲子園夏の決勝であるKKコンビのPL学園に勝利する逸話は、まさに実況生中継を聞いているかのような名調子でした。昨今の侍生問題などでゆれるアマチュア野球界にあって、木内監督が実践した公立高校における生徒指導、教育面に力点を置かれた講演内容は、上田から上京された内田現監督をはじめ我々OB会の面々に大きな教訓を頂いた次第です。

さて、昨年の甲子園での佐賀北高や松代高校の活躍をみるまでもなく、公立進学高の母校が三度目の甲子園出場を果たすことは決して不可能ではありません。球友会としては、「従来のように、資金カンパに重点をおいた活動だけで良いのか、考えて見る必要があるのではないか。母校の伝統である文武両道に徹し、基本を旨とし、限られた練習の時間、場所、その他物的条件を前提として、上田高校独自の野球指導哲学の構築を目指して日々励んでいきたい。」(成田会長談)とも考えます。

今後、関東同窓会の皆様の絶大なるご理解とご協力をお願いいたします。

第3回化学班OB会開催

一昨年スタートした化学班OB会(大野和男会長)が今年も9月1日に東京銀座の和風居酒屋「塩梅」で開催された。上田市丸子や北杜市大泉の遠方からの参加者もあった。今回は「病気による大野氏の会長辞任」、「検査入院による清水周恩師の欠席」及び「小講演(小平再登場)を依頼していた中島宏先輩の退院直後故の欠席」と病気による急な欠席者があったが、昨年同様11名もの参加があった。

会の冒頭、急遽依頼した矢嶋瑞夫氏(あさま化成社長、農学博士)による小講演「乳蛋白中の抗体の有用性について:特にシニア世代との関わり」があった。生乳中の乳清蛋白に熱を加えずに粉末・顆粒化した「あさま乳清蛋白」の細菌や細菌毒素に対する抗体の説明であった。我々体力の弱ったシニア世代にとっては有用な講演であった。帰りにサンプルを1箱ずつ戴いた。

懇親会ではこの講演を起点として、色々な方面に話題は展開し、落ち着いた中で活力に満ちた楽しい一夜であった。参加者は大塚教夫(53期)、青木幹男(55)、児玉三明(56)、宮原勉雄(57)、大井秀三郎・高橋福幸・矢嶋瑞夫(以上58)、木下(小平)峰雄・関口(柴崎)勝子・萩原清人(以上59)、橋爪宏達



(73)の各氏であった。新会長は大塚教夫氏に御願いして散会した。

尚、本OB会を物象部(物理班・化学班・地学班・写真班)全体のOB会に発展させていきたい名簿を作成中です。これらの班に少しでも在籍して居た人は老若男女を問わず幹事長まで御連絡下さい。来年の案内を致します。(高橋記)

幹事長;高橋福幸

電話&Fax. 046-285-1086

Yoshiyuki-taka@mte.biglobe.ne.jp

古希を迎えて故郷の名山に登る

54期 杵掛 文哉

数年前から、関東同窓会54期の有志10余名が、毎週火曜日、「北鎌倉駅へ集まって「鎌倉散策」を続けている。鎌倉周辺だけでは飽き足らなくなつて、箱根外輪の明神が岳や金時山等へも足を延ばしていたが、今年古希を迎えるにあつて、一念発起、まず6月18、19日、有志8名が千曲川源流を訪ね、その足で日本百名山の甲武信岳(2475m)に1泊登山を敢行し、全員無事、踏破した。千曲川は私たちに於いて、幼時の魚釣り、水浴びから始まって、青春を謳歌、涙した忘れがたき叙情の川である。どうか、千曲川水源地標の建つ傍らで、日本の甘露の水を飲んだときの私たちの感激を想像して頂きたい。

これに味をしめ、10月1、2日、清瀬市立科山荘に宿を取つて、有志10名が蓼科山行を試みた。1日に蓼科牧場から日本百名山の蓼科山(230m)往復を予定していたが、霧と雨で視界ゼロ、女神湖散策及び車山のペンション探訪に変更。翌2日に御泉水・蓼科山七合目登山口から登山開始した。雨は降らないまでも、霧が立ち込め視界ゼロが続く。時折、女神湖周辺や霧が峰、美ヶ原等が展望されるが、蓼科山の頂上の姿も見えないままに、將軍平・蓼科山荘に到着、最後の難所・岩ゴロの続く急登に入る。息を整えつつ一歩一歩よじ登ると、蓼科山頂ヒュッテに到達、ついに蓼科山山頂である。蓼科山は八ヶ岳連峰の最北端に位置し、頂上は樹林限界を超えているので、晴れていれば眺望360度に及び雄大のはずだが、今回は霧に閉ざされ残念至極であった。頂上標柱近くの蓼科神社奥社に参拝後、社前で昼食。身体が冷えるのを避けて、程なく



関東同窓会 golf

第10回 ゴルフコンペ報告

現執行部としては最後となる第10回ゴルフコンペは、千葉県野田市の名門コース、千葉カントリークラブ川間コースで、4月2日（水）に開催された。

初出場4名を含む28名（7組）がエントリー、桜が満開で絶好のゴルフ日和のもと、一日プレイを楽しんだ。結果は、毎回上位入賞する実力者、松木強さん（60期）が、ベスグロで優勝。優勝 松木 強（60期）44、40=84 ハンディ12.0 ネット72.0 準優勝 飯島慶三郎（55期）42、42=84 ハンディ10.8 ネット73.2 3位 丸山暢久（65期）47、42=89 ハンディ14.4 ネット74.6 BB 河西秀夫（54期）52、50=102 ハンディ19.2 ネット82.8 ベスグロは、飯島、松木さんが84の同スコアで分け合う。

優勝の松木さんの話『私はこのコンペ3回目の参加です。ゴルフには多少思いもあり参加したのですが、諸先輩をはじめ皆さんのマナー・立居振る舞いが洗練されており、さすが六文銭の上田高校OBと感じ入った次第。この度は、60期の同期4人で気楽に回れたのが勝因だと思います。』

また、今回は、過去5回から9回の優勝者による、優勝カップ取りきり戦も実施。資格者は、5回飯島（55）、6回笠井徳爾（61）、7回神津勝重（54、欠場）、8回丸山（65）、9回瀧沢政視（65）の各氏で、今回出場は4名。

熾烈な戦いを制したのは、準優勝にも入ったベテラン飯島さ



んで、見事、前田同窓会会長寄贈のカップを獲得した。飯島さんの話『第10回という節目の大会のカップ取りきり戦に勝つことができ、最高の喜びです。同伴競技者、瀧沢、丸山、池田さん（いずれも65期）と満開の桜の下で楽しくプレイでき感謝しています。幹事の皆さん、参加の皆様、ありがとうございました。』

そして、今回の大トビックスは、10回目にして、初めてのホールインワンが出たことです。達成したのは、花房伸吉さん（54期）。東コース7番（155ヤード）のことでした。

花房さんの話『ホールインワンは初めての体験です。午前中の出来事で、午後からのプレイは乱れてしまいました。入ったか半信半疑でグリーンに行ってみると、カップインしていました。キャディ無しのプレイなので保険は出ないと覚悟していましたが、千葉CCは、コンペでもあるので証明書を発行してくれました。皆さん有難うございました。』

最後に、当日参加者の皆さんにアンケートを実施し、当コンペの今後の運営等につき意見を集約した。結果は、「関東同窓会ゴルフコンペは、今後も、同窓生の懇親の場として続けて欲しい。」という声が強いところから、継続する方向で次期執行部に引き継ぐ予定。

ゴルフ同好会幹事 上原 昇（65期）

三三三

水島 良子（67期）

昨日発表された第58回芸術選奨文科大臣賞に私の高校3年間の担任で52期卒業の矢島浩男先生のお名前がありました。とても嬉しかったです。今朝の朝日新聞に載っていました（20年3月1日）

宮島 光男（55期）

龍馬の手紙に超高値！ テレビの人気番組「なんでも鑑定団」に登場した小生の畏友、三吉治敬さん（東京上田会ふるさと会幹事長）が持参した坂本龍馬の手紙4通が、プロの鑑定家に「真正」と鑑定され、何と「少なくとも6千4百万円」の超高値がつけられました。

会場には、上田松尾高校同期（55期）の仲間ら大勢が参加していました。この値段を聞いて「ワーッ」と歓声が上がり盛り上がりました。

三吉さんの曾祖父は長州の志士、三吉慎蔵。「棺の慎蔵」として知られ、幕末に坂本龍馬と交友があり、有名な寺田屋事件で坂本龍馬が襲われた際、一緒にいて坂本を助けたことで知られています。

三吉さんは「家にある西郷隆盛などの史料とともに、上田に記念博物館を作る運動を進め、広く知らせたい」と話し、参加していた人々を感動させていました。（19年9月17日）



故郷の名山登頂者：市河富弘、荻原統夫、香掛文哉、倉島 彰、神津勝重、小菅健司、竹重節雄、田村 朗、中村忠勝、宮沢壮介、山崎茂幸。

下山に入る。その丸みを帯びた優雅な山容から、別名「女の神山」と呼ばれている藜科山だが、登りに劣らず、下山も厳しいものであった。とくに將軍平までの大石のころろろする急斜面は表面が濡れていて、滑りに細心の注意を払いながらの歩行が続き、ひざが笑い出した。それでも頂上から休み休み、ゆっくりゆっくりの下山を重ね、午後3時過ぎ、全員無事、元の七合目登山口・藜科神社一の鳥居をくぐった時には、思わず全員でハイタッチ、めでたく万歳の集合写真となった。

帰途、佐久平からの新幹線車中、盛大に登頂成功の祝杯を挙げたことは勿論である。

62期、大河ドラマ風林火山で人気の 甲州路探索と秘境の温泉にて同期会

62期は、17年秋に関西地区との合同で奈良にて同期会を行いました。

2年ぶりに2度目の同期会懇親旅行を昨年11月17日(土) 1泊2日で開催しました。大河ドラマ風林火山で人気をよそした甲州路(信州も同様でしたが)を探索



7組の夫婦と合わせ計19名が集まり、貸切バスにて新宿から出発して最初の目玉、ZINの大河ドラマの撮影現場のセット風林火山館(甲斐小泉)見学。午後、紅葉の真つただ中の昇仙峡を散策、その後、武田信玄を奉った武田神社を参拝し、今宵の宿、信玄公の隠し湯、一件宿の秘境の温泉、積翠寺温泉へ到着。

夜の宴は盛り上がり、上高生時代の青春に戻り楽しい一夜となりました。

2日目はやはり信玄公に関わりのある甲斐善光寺、信玄公の菩提寺、恵林寺を参拝し、甲州の特産品のワイン工場を見学し、美味しいワインを試飲しました。

バスの中では同期の元ZINの職員で羽田啓吾君がかつて数年甲府支局に勤務していたこともあり、詳しく昨今の山梨の事情など解説してもらいました。午後は地元(大月)の酒造を見学した後帰路につきました。秋のベストシーズンを一息つくまで堪能してきました。今後、我が期は年に1回懇親旅行を実施することにしていきます。(秋田勇・記)

■運営基金 拠出者 氏名

期	氏名	金額	59	清水侯博	10,000	61	山浦直次郎	10,000
49	荻原 賢	10,000	60	白井 透	10,000	65	小山雅堂	10,000
51	丸山瑛一	10,000	61	荻原隆治	10,000	65	西澤省悟	10,000
54	石井光春	10,000	61	笠井徳爾	10,000	78	小相沢 直	10,000

■寄付者 / 寄付グループ 氏名

期	氏名	金額	60	沓掛行徳	2,000	63	川村恭司	2,000
31	土屋 学	32,000	60	黒澤博身	2,000	63	田中 稔	2,000
32	中村禮三	2,000	60	甲田 奏	2,000	63	保屋野美智子	2,000
34	松井正直	5,000	60	下里 剛	2,000	64	北原巖男	2,000
37	岡 清助	2,000	60	白井 透	2,000	64	村居次雄	2,000
41	山崎千里	3,000	60	袖山 脩	2,000	65	上原 昇	2,000
42	山川光雄	2,000	60	鷹野芳機	2,000	65	内堀 信	2,000
42	横山誠之助	2,000	60	竹倉征祠	2,000	65	柄澤則夫	2,000
43	保刈大治	3,000	60	田中 節	2,000	65	小山雅堂	2,000
44-5	柳澤 廣	2,000	60	羽毛田 信	2,000	65	関森 寿一	2,000
44-4	高橋昭平	2,000	60	橋詰武敏	2,000	65	瀧沢政視	2,000
44-4	堀内茂雄	8,000	60	福嶋 宣	2,000	65	田中 昇	10,000
48	大平 暁	1,000	60	松木 強	2,000	65	田中由紀子	2,000
49	荻原 賢	15,000	60	丸山久勝	2,000	65	深町美由	2,000
53	高木快雄	1,000	60	三井武雄	4,000	65	丸山暢久	2,000
54	前田喜美子	5,000	60	森田英明	30,000	65	宮原 豊	2,000
56	小平節夫	2,000	60	山本哲之	2,000	66	清水通男	10,000
56	鷺尾謙治	3,000	61	荻原隆治	2,000	66	竹内豊和	1,000
57	金澤昭義	2,000	61	笠井徳爾	10,000	77	黒澤太平	1,000
57	小島士郎	2,000	61	関 勝	2,000	78	小相沢 直美	6,000
57	高木佳年	8,000	61	玉木純雄	2,000	80	齋田 信子	22,000
58	佐藤鐵也	2,000	61	西澤正捷	2,000	80	小林 章	1,000
58	寺島知恵子	100,000	61	三井文人	2,000	第46回総会実行委員会		9,439
58	百瀬和紀	2,000	61	麦島和子	2,000	次期会長選考委員会		8,042
58	矢嶋瑞夫	2,000	61	山浦直次郎	2,000	61期7組有志		14,390
59	工藤卓也	2,000	62	秋田 勇	2,000	第47回総会実行委員会		7,567
59	西沢正浩	1,000	62	岩井重一	2,000	上田球友会		10,893
60	池田 清	2,000	62	小須田光一	2,000	上田在住36期中村善衛		5,000
60	井上 茂	2,000	62	高梨奉男	2,000	役員会		3,404
60	川上知行	2,000	62	真山隆夫	2,000	計81人、7グループ		454,735

いずれも
平成19年4月1日～
平成20年3月31日
の寄付者です。
ありがとうございました。

■事務所維持費 寄付者 氏名

期	氏名	金額	55	宮島光男	10,000	59	櫻井資悦	10,000
32	中村禮三	10,000	56	成田邦夫	10,000	60	白井 透	10,000
49	荻原 賢	20,000	58	金子親碩	10,000	61	笠井徳爾	10,000
53	高木快雄	5,000	58	寺島知恵子	10,000	61	荻原隆治	10,000
53	堀内忠久	5,000	59	寺島紘士	10,000	62	田島善光	10,000
54	田中嘉親	20,000	59	有賀勝雄	20,000	64	清水敬久	5,000
54	馬場武彦	10,000	59	小林芳友	10,000	合計19人 41口		205,000

上田高等学校 関東同窓会 第46回総会 出席者一覧

今年もお会いしましょう。少ない期の方も勇気を起こしてご出席ください。

来賓 (敬称略)

同窓会本部 笠原一洋(53) 西田不折(57) 岡崎光雄(54) 島田甲子雄(65) 丸山はる代(65) 日置勇二(60)
 上田高校 藤本光世 落合康隆(77)
 関西同窓会 荻原宏信(53)
 中南信支部 菅谷 昭 (60) 真道 茂(54)
 特別参加 江 庸子 西澤真理子(91) 西澤 寛 (61) 同夫人 北條彰一 (51)

☆は総会実行委員担当期

期	会 員 氏 名 (敬称略、順不同)						
31	土屋 学						
32	中村禮三						
33							
34							
35							
36							
37	岡 清助						
38							
39							
40							
41	宮下俊夫						
42	横山誠之助						
43							
44 - 5	柳澤 廣						
44 - 4	高橋昭平						
45							
46							
47	佐藤一郎						
48	相田俊一	堀内 惇	山崎延秋				
49	荻原 賢	堀内寅次	飯島弘行	土屋 正			
50	児玉忠雄	吉村洋一					
51	丸山瑛一	上原隆雄	井出英三郎	六川博輔	中島 宏		
52	柳沢 忠	小林盛男	上原佳和	宮島廣人	柴田正人	森 浩一	浜野志め
53	浅野井 恭	山本農夫彦	飯島房子	堀内忠久	阿久津義雄	堀内 福	須田武久
	井澤 保	服部聡一郎					
54	中島隆之	馬場武彦	市川富弘	田村 朗	藤村延魚	沓掛文哉	山本正秀
	荻原統夫	寺島重暉	馬場雄二	河西秀夫	望月源治	小菅健司	石井光春
	大矢憲明	有賀俊雄	前田喜美子	倉島 彰	久昌貴代江		
55	滝沢克彦	宮島光男	土屋 務				
56	神津 進	成田邦夫	笹沢政道	松瀬勝雄	濱村邦夫	羽島昭一	田村 功
	長坂光登	飯高盛龍	児玉三明	小平節夫			
57	高木佳年	金澤昭義	桑原恒雄	宮坂幸雄			
58	山邊光一	寺島知恵子	宮川克彦	金子親碩	高橋福幸	矢嶋瑞夫	北村尚巳
	佐藤鐵也	寺島紘士	品川勇一	赤池三男	今井洋幸	百瀬和樹	
59	小林芳友	関根克郎	有賀勝雄	工藤卓也			

☆	60	福島 宣	中島 亨	下里 剛	井上 茂	竹内和彦	沓掛行徳	久田英保
		山本哲之	小林徳太	池田 清	久保柳哉	竹倉征祠	鷹野芳機	丸山久勝
		三井武雄	関 一嘉	岩下征二	小林克彦	白井 透	甲田 奏	松木 強
		田中 節	荻原武仁	塩川英世	羽毛田 信	田中 誠		
		神津英明	大橋邦夫	橋詰武敏	竹内善尉	黒澤博身	丸山寿雄	倉沢宣弘
		田澤謙三	袖山 脩	川上知行	増田 裕	土屋 哲	田中武夫	
		中島敏男	三井東洋司	矢嶋邦彦	田中 純	長谷川靖	竹内宰示	
☆	61	荻原隆治	山浦直次郎	笠井徳爾	三井文人	西澤正捷	玉木純雄	井上 剛
		関 勝	滝澤 進	麦島和子	佐藤守正			
☆	62	高梨奉男	松井由美	岩井重一	諸岡健児	秋田 勇	真山隆夫	小須田光一
		田島善光	丸山 茂					
☆	63	藤川 昇	川村恭司	田中 稔	山浦成子	保屋野美智子		
☆	64	石井則男	村居次雄	清水淳郎	塚田高明	藤巻禮子	北原厳男	
☆	65	上原 昇	田中由紀子	森 則雄	宮原 豊	柄澤則夫	小山雅堂	木村和子
		丸山暢久	小宮山豊	小宮山雅子	関 賢治	武澤美佐子	牧野 泉	原田義則
		深町美由	関森寿一	瀧沢政視	内堀 信	山浦陽士		
☆	66	磯川周治	清水通男	大石雄司				
	67	水島良子	土屋英子	藤巻敬子	丸山博見			
☆	68							
	69	倉沢 裕	池田有美子					
☆	70	松久宏明	小池朋子	丸山清光	中村 冠			
	71	赤木千江子	望月亮子					
☆	72	依田昌樹	関 博明					
	73	和氣寿子						
☆	74							
	75							
☆	76							
	77							
☆	78							
	79	荻原 貴						
☆	80	會田信子						
	81	石田みどり	服部みどり					
☆	84							
	85							
☆	87							
	92	橋本真弓						
☆	95	橋本清香						
	96	渡邊博治						
☆	97	鈴木葉子						
	101	居鶴有未恵	内藤博章	葦澤健作	高原明日香			
☆	102	村山聡美						
	103	土屋桃子	中沢 翔	大田 岳	宮下綾太			
☆	104							
	105							

* 101-105期学生は無料

出席者総数 会 員 222 人 (うち学生 9 人)
 招待者、特別 16 人
 合 計 238 人

61期

昭和38年 3月卒 **61期の皆さんへ**

今年の総会は私たちがメインの当番期です。また、これが最後の当番期です。総会の後、同期会も企画していますので、ぜひご参加ください。

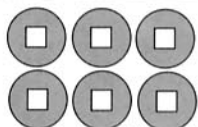
61期 代表幹事 三井文人

クラス幹事 1組 関 勝 2組 沓掛 忠

3組 市川武伸 4組 成沢文計

5組 荻原聖巳、坂井英樹 6組 山浦直次郎

7組 荻原隆治 8組 高橋宗雄





平林 久さん(60期) 松尾倶楽部で講演

今、地球の周りを「はるか」という人工衛星が回っている。実はこれ、中空で8mもの巨大な網を広げて宇宙からくる電波を捉える世界初の電波天文衛星なのだ。この衛星が偉いのは、自分で電波を捉えるだけでなく、地球上のいくつかのアンテナと協力して観測している、そのシステムの中心になっていること。

「はるか」が受けた電波と地球上

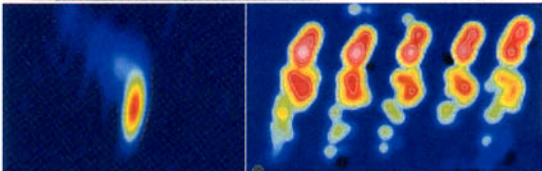
のアンテナが受けた電波を「相関器」という装置にかけると、何億光年もかなたの宇宙の電波像を作り出すことができるのだという。人類は、これによって、地球の直径よりも大きな「瞳」で宇宙を見ることができるようになったのだ。

このようなシステムを作りましょうと提案し、計画を実現させていった中心にいたのが平林さんだ。「はるか」の打ち上げから、その後の世界の科学者たちとの協力体勢の確立まで、何事も初めてのことで苦労は大きかった。ワークステーションの画面に画像がはじめ浮かび上がったのを見たとき、昼のご飯は心でかみしめてほとんど無言だったという。

平林さんが4歳の頃、父親が野良で、「大きくなったらあの峠までつ

れて行ってやる」と言ったという。

室賀峠を「遠いなあ」と眺めた少年の世界は、今その何倍か計算もできないくらいはるか遠くまで広がっている。

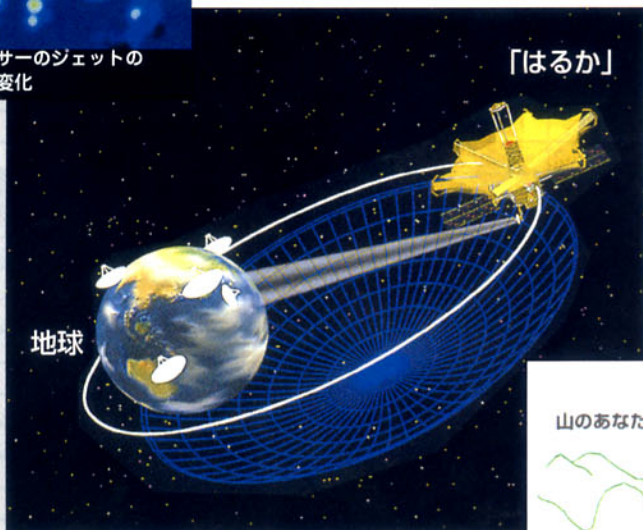


100億光年を超える遠方のクエーサー

クエーサーのジェットの時間的変化

平林さんは坂城町出身。67年東大卒、72年同大学院博士課程修了。72年より東大東京天文台～文部省宇宙科学研究所衛星応用工学研究系教授～宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究本部教授等として活躍。97年に打ち上げられた電波天文衛星「はるか」のプロジェクトを推進した。4月23日松尾倶楽部での講演はユーモアを交え難しい話をやさしく語った。

主な著書に「宇宙の分かる本」「ETからのメッセージ」「宇宙人の条件」「自然の謎と科学のロマン」など。25年前、七夕の「彦星」に向けて発信した宇宙人へのメッセージも平林さんが、2進法の図形表現で描いた。



「はるか」



松尾倶楽部へのお誘い 〈上田文化人の集い〉

同窓会は、時の流れを一つの軸として存在します。同窓会を縦糸とすれば「松尾倶楽部」は横糸といえるかも知れません。

両者が織りなす多彩な糸の布を、さらに、“横幅”の広いものにしたい、というのが私達の念願です。だれでも自由に来て、気楽に座れるジュータンのような“布”を織っていききたい、そんなことを目標としています。



松尾倶楽部

この六文銭は青春と個性ある同窓生の輪を象徴しています。馬場雄二（54期）作 〒106-0031 東京都西麻布4-11-7-702 代表幹事 馬場武彦（54期）

前身は「上田経済問題懇談会」。1960年代、同窓会に集まった何人かが、それぞれの“専門知識”を交流することも面白いんじゃないかとスタート。友人同志が「互いに切磋琢磨しあう」という言葉がまだ生きていた時代でした。

松尾倶楽部となったのは1986年。取り上げられるテーマや活動も多様化し、今は文化的な組織となり、数ヶ月おきに、著名人文化人の講演会、研修旅行、新年会などを行っています。伝統ある講演会は、130回目となりました。

年会費等はなく催しに参加する時のみ参加費を頂く仕組みです。詳しくはホームページをご覧ください。http://www.matsuo-club.jp

初の女性同窓生の集い

本部では初めてとなる女性同窓生の集いが、19年10月21,22日開かれました。母校校門前に集合した一行は、卒業以来初めてとなる人も多い母校訪問の後、真田町のホテルで懇親、旧交を温めました。（関連記事＝9ページ参照）

